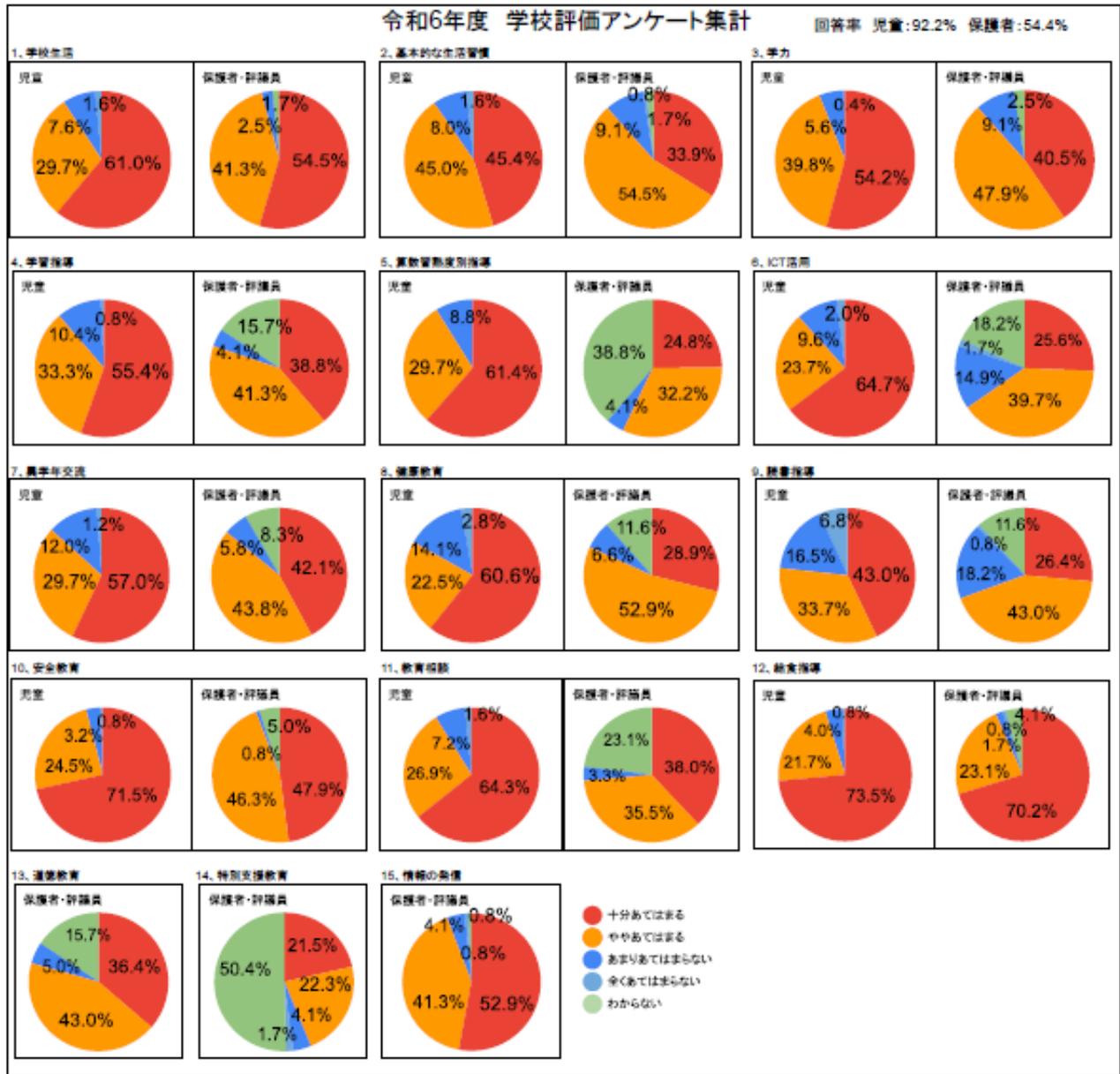


1 自己評価の結果と分析

(1) 学校評価アンケート結果



(2) 分析と考察

① 自ら学ぶ子

- ・「すすんで学習に取り組んでいる」と回答した児童は 90%（前年度同様）であった。「児童が主体的に学べる工夫をしている」と回答した保護者は 79.7%（昨年度比 4.3 ポイント減）であった。
- ・区学力調査の結果においては全学年、ほぼ目標値を 10 から 20 ポイント上回っている。「主体

【別紙様式1】

的に学習に取り組む態度」に関する設問の正答率は6年生以外の学年で6～11ポイント上回っている。中学校との接続を踏まえ、各教科等で交流活動を充実させ、互いに称賛し合うことを通して、考えを書くよさや伝えるよさを価値付け、すすんで学習に取り組もうとする態度を養っていく。

②心豊かな子

- ・2期に分けて「あいさつ運動」に取り組み、学級ごとにポスター作成や気持ちのよい言葉掛けを工夫した。「すすんであいさつしている」と回答した児童は全体では90%であるが、低学年と高学年の回答に差が見られる。(高学年は低学年に比べ4.1ポイント減)
- ・異学年交流活動については、たてわり班活動・学校たんけん・子ども祭り・全校遠足等、計画通り実施した。保護者の85.6%が「他学年との結びつきの深まり」に肯定的な回答をしており(前年度比1.6ポイント増)、思いやりのある豊かな関わりができる活動を今後も継続していく。

③たくましい子

- ・体育アンケートでは、「運動することや体育が好き」と回答した児童の割合は87%であった。体力調査の結果から、6年生は体力合計点が10ポイント向上した。
- ・他学年においては、持久力、握力に課題が顕著であることから、引き続き体力・運動能力の低下の課題改善に向け、年間を通した体力向上の取組、日常的な体育的活動の充実を図っていく。

2 改善の方策

(1) 教育活動の充実と工夫

①健康・安全を守る取組

- ・児童の体力向上、運動の日常化に向け、体育科の授業改善と体育朝会や休み時間の遊びを工夫していく。
- ・アレルギー、AED、水害や不審者対応等の教員研修を充実し、年間通した安全指導を徹底する。

②個に応じた教育の充実

- ・「きたコン」を活用し、個別最適な学び、主体的・協働的な学習のより一層の充実を図る。
- ・課題解決的な学習、教科横断的な学習、調べ・体験・まとめ・発表(表現)する活動等を充実する。
- ・教育相談機能を充実し、問題の解決を図るとともに、特別支援教室における巡回指導を行い、支援が必要な児童一人一人に応じた教育支援体制を構築し、特別支援教育を充実する。

(2) ウェルビーイングを高める学校づくり

①学校全体のウェルビーイングを高める取組の充実

- ・自己理解を深め自他共に大切に思える心情を養うとともに、自分のよさをさらにのばしていく取組を充実する。キャリアパスポート等を活用した日常的に自己実現を図る機会、地域人材・近隣施設等を活用した体験的に学ぶ場や機会を多く設定する。
- ・WEBQU調査やSC、SSW等と連携した相談機能の充実、巡回指導等による支援が必要な児童一人一人に応じた教育支援体制をより強化していく。

②学校の組織力の向上と働き方

- ・教職員が互いに補完し合う関係づくりに努め、「おたがいさま・おかげさま」の気持ちを持ち、組織の一員として職務に当たれるようにする。
- ・授業時数や行事・会議等の見直し、教材研究や授業準備・学年会の確保、行事前や諸帳簿作成等の繁忙期において校務に専念できる時間の確保に努める。

③授業改善、授業力向上

- ・授業観察、各巡回指導授業、区一般訪問、SF 授業公開等を通し、各教科等の授業改善を図る取組を充実するとともに、若手教員の育成に組織的に参画する体制を構築する。
- ・計画的に校内研究を推進し、分科会機能の充実と授業について相談しやすい環境を整える。